



敵対的TOBから一転 オイシックスがシダックスを27.97%保有 2022年10月の大量保有報告書



M&A

Online編集部が大量保有データベースで2022年10月の大量保有報告書などの提出状況を調べたところ、食品宅配事業を手がけるオイシックス・ラ・大地が、業務提携を目的に給食事業を手がけるシダックス株式を新規に27.97%取得したことが分かった。

特別委員会の設置で合意

オイシックスは2022年8月29日に、シダックスにTOB（株式公開買い付け）を実施すると発表した。オイシックスとシダックス創業家は、TOBを通じて両社が業務提携し、シダックスの給食事業と、オイシックスの食品宅配事業でシナジーを引き出すことを狙っていた。

ところがシダックスの取締役会は9月5日に、創業家の意向に反してTOBに反対すると発表し、敵対的なTOBに発展していた。その後シダックスの給食事業の協業相手を検討する「特別委員会」を設置することで合意できたため、シダックスは10月7日に、TOBへの意見表明を「反対」から「中立」に変更すると発表し、10月24日にTOBが成立した。

米ベインが日立金属株の88%を取得

米国の投資ファンド・ベインキャピタルは、TOBで日立金属の株式を35.48%取得し、日立金属の保有株の売却を決めている日立製作所分と合わせ、保有割合を88.69%とした。

日立金属は1956年に日立製作所の鉄鋼部門が分離独立して発足した、日立グループ内の有力企業だったが、グループ事業の再編の中で、売却が決まった。

このほかに、三機サービスやシナネンホールディングスなど多くの株式を保有する光通信が純投資を目的に、大東建託の株式5%を新たに保有したほか、若築建設や大豊建設などの株式を保有する麻生が、ガス配管工事会社の協和日成の株式を新規に5.14%保有した。麻生は「安定株主として長期にわたり保有する予定」としている。

2022年10月の大量保有報告書などの提出件数は1018件で、このうち保有割合を増やしたのが261件、新規保有が166件、保有割合を減らしたのが499件、契約の変更などが92件だった。

文：M&A Online編集部